



若築建設株式会社

■ 会社概要

弊社は、1890（明治 23）年、海上交通の要衝である洞海湾（北九州市・若松港）および周辺の運河を改良し、筑豊炭田から採掘された石炭の積出港として開発・運営することを目的として設立されました。

以来 130 年、海上土木事業のパイオニアとして技術と経験を積み重ね、港湾施設や空港施設、さらには都市開発に伴うインフラ事業、風力・太陽光などの再生可能エネルギー関連事業、工場、教育・医療・福祉施設の建設等の事業を展開してまいりました。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒 2-23-18

TEL. 03-3492-0271

URL : www.wakachiku.co.jp



■ 研究会への参加動機



弊社は、再生可能エネルギー関連事業を営業種目の一つとしたいと考え、10 年程前から取り組んでおります。

3 年半前、東京大学生産技術研究所が主体となり、波力発電と潮流発電の研究、技術開発を進められていると紹介を受けました。

弊社は、洋上の再生可能エネルギー分野では、洋上風力発電の研究開発のみ行っていたため、波力発電と潮流発電を研究したいと考え、この研究会に参加しました。

■ 研究会に参加して感じたこと、学んだこと



技術開発の難しさを痛感しています。

また、丸山先生、林先生のご熱心さに感心しています。

自社単独ではなかなか進まない技術開発を東京大学生産技術研究所と各社様の技術と知識で開発して行けることに大変感謝しております。

入会当初は、潮流発電でしたので、波力発電もより研究に励み、技術開発の一翼を担えればと考えております。

■ 研究会担当者の自己紹介

弊社マスコットの「かものはしのわっくん」です。

海上土木から陸上土木、建築へと幅広く事業領域を拡充するイメージに合うキャラクターとして生まれました。

かものはしは、鴨のようなくちしがエサをさぐるセンサーの役割をしており、多角的に情報をキャッチし、迅速に選択しながら情報発信し、未来に向かって躍進、成長を続ける若築建設を表象するマスコットです。



■ 研究会で担ったパート

実は平塚では、まだ活躍の場がないのが現状です。

この平塚研究会での経験を活かして、プレコマーシャルとして計画されている福島県の浪江波力で海上運搬、海上工事を担当したいと考えています。

弊社は、栈橋や岸壁の据付け工事において、ジャケットの据付け工事を最近のこの20年間で22件の実績を有しております。

平塚研究会を元に、マリコンとしての経験を活かして、海上工事、装置据付けのコスト軽減を図りたいと考えています。

浪江波力の施工場所は、外洋となり、これまで以上に波浪による施工の制約を受けます。気象、海象の予測を正確に把握し、持てる技術を集約して安全に迅速に施工を行う予定です。



■ 就職を考える人へのメッセージ

何よりも、社員想いの会社でありたい

若築建設の最大の魅力はやはり「自由闊達」な社風にあります。社員同士の仲の良さ、アットホームで家族的な職場環境、ものづくりへの結束した情熱は、他のどの会社にも負けない自信があります。

★詳しくは、若築建設 HP「採用情報」をご覧ください。



若築建設



■ 会社のPR

～ 再生可能エネルギーへの取り組み ～

風力発電の施工事例（ユーラス由利高原ウインドファーム）



秋田県由利本荘市で建設を進めていたユーラス由利高原ウインドファーム（総出力2万1,000kW）が完成し、2015年12月18日より営業運転が始まりました。1基当たり3,000kWの風力発電を17基設置したもので、秋田県における操業中の風力発電所としては最大規模になります。発電量は一般家庭の約3万世帯相当分の電力量に相当します。

バイオマス発電の施工事例（佐伯バイオマス発電所）



大分県佐伯市において、セメント工場の敷地内の約2万㎡を利用してPKS※を主要燃料とするバイオマス発電所が建設されました。当社は主に土木・建築工事の施工にたずさわりました。定格出力5万kWの発電量は、県内のバイオマス発電では最大で、国内でもトップクラスとなっています。年間の発電量は約315百万kWhを想定しています。これは約87,500世帯分に相当する電力で、佐伯市の総世帯数（約33,500世帯）の2.6倍に匹敵します。

※Palm Kernel Shellの略。東南アジアで栽培される油やしの搾油時に発生する殻（廃棄物）

太陽光発電の施工事例（庄内遊佐太陽光発電所）



庄内・遊佐太陽光発電所の敷地面積は31ha（日比谷公園2個分弱）、設置する太陽光パネル6万6,440枚による出力合計は18MW、年間発電量は1万8,000MWhとなります。これは一般家庭の消費量に換算すると約5,700世帯分の電力にあたります。この太陽光発電によるCO2削減量は、年間7,600tとなります。